

# 保育の質の向上に向けて —実施運営の質の向上を中心に—

---

京都教育大学 古賀 松香

# 本日の内容

---

- 実施運営の質の向上に向けて
  - 運営主体／施設内マネジメント
  - 今後の研修の在り方と教育資源の有効活用
  - 社会に開かれた保育所保育
  - 保幼小のヨコとタテの連携・接続に対する意識改革

# 保育の質を捉える視点(OECD, 2006)

---

- 方向性の質: 政府が幼児期の政策に示す方向性の質
- 構造の質: 幼児期の教育プログラムにおける質を保障するために必要な包括的構造。法律または規制の明確な制定や施行によって保障される。
- 実施運営の質: 地域ニーズへの応答性、質の改善、効果的なチーム形成に焦点を当てた運営管理の質。地方行政や施設長の専門的能力に大きく依存する
- 保育プロセスの質: 保育者ー子ども、子どもー子ども間の関係のあたたかさややりとりの質
- 子どもの成果としての質: 子どもの様々な発達の側面における育ちの質

# 実施運営の質を問う視点の重要性

---

- 実施運営の質＝各運営主体に任された裁量部分は、各保育所等のプロセスの質に直結
  - 地域ニーズに応じた定員数や開所時間
  - 各施設における職員のおさ・得意分野を活かした担任構成
  - 各施設やクラスにおける保育の計画や職員研修 等

# 実施運営上のマネジメントと質の向上

---

## 【時間・空間・人的配置のマネジメント】

『1歳児保育の難しさとは何か(古賀, 2011)』から

- 1歳児の発達差の大きさへの対応: 生まれ月で年度前半クラス／後半クラスに分ける、歩行が確立していない子どもは0歳児クラスで合同保育をする
- 空間の狭さによるトラブル回避対応: 子どもを小グループ化し、使用する空間を時間で分ける、担当制によるスムーズに流れる保育
- 不安定な子どもへの対応: じっくりと関わる人数加配、年度前半の加配保育士、担任の持ち上がり等、人的配置の工夫

# 実施運営の質の向上のために

## □ 保育の構造的理解

### ■ 時間・・・トラブル高発生時間帯と保育士出退勤時間帯

個別対応と遊びの援助／生活場面の切り替えとの複合時間帯

### ■ 内容・・・有資格者のやるべき教育と養護及び子育て支援に関する内容と、無資格者のできる作業とを分ける

### ■ 保育者・・・園長、主任保育士／専門リーダー／職務分野別リーダー／リーダー(副主任)／中堅／初任保育士、保育補助者 等

構造的理解から人的配置のマネジメントへ

・・・事例集の作成と周知・研修 等

# 実施運営上のマネジメント：園内研修 ⇒プロセスの質の向上

---

- 4月⇒2月では明らかに子どものトラブルが減少する(古賀, 印刷中)
- 保育士との安定的な関係構築、保育士の子ども理解の深まりによって、やりとりの質が向上し、トラブルが減少することが推測される
- 実施運営の質の一つである園内研修の効果的な実施により、子ども理解を深め、保育士相互の連携を促進することが重要
- 園内研修の効果的な実施に向けた外部指導者等の効果的活用の推進

# 今後の研修の在り方

---

- 幼児教育分野の研修の有機的・効果的融合
- 保育・教育の一体的推進体制の促進
- 保育所の知を他の幼児教育施設と共有化
- 園外研修・園内研修が担う相補的役割の明確化・  
研修の全体像の構造化
- 地域の教育資源の活用促進

# 質向上へ向かう評価と社会に開かれた保育所保育

- 質向上のための評価は、対話的プロセス(自己内・対人間)が含まれる 自己評価、関係者評価と園内研修から
- 地域の関係者評価や委員会活動等を取り入れる

⇒社会に開かれた保育所保育へ

保育所とは何をするとところか 理解を広める

×保育とは、子守りという個人的営みの社会的負担

○これからの社会を担う子どもたちにとって重要な、養護と教育が一体化した営み

○乳幼児期の豊かな経験が全ての子どもの発達を保障する

# 保幼小の連携・接続への意識・実践改革①

【課題】幼児教育の本質的な理解を進めていく必要性

- 幼稚園等の幼児教育施設との協働的な研修方法の確立
  - 具体的な事例を共有し、互いの信念やその信念から生じる保育方法を、「何のためにそうするのか」という目的に基づいて理解する
  - 具体的な事例は常に多面的捉えによって理解が深まり、保育の質の向上へ向かうことを理解する
  - 参加者全員のフラットな関係性と全ての発言が価値づけられる研修方法を

# 保幼小の連携・接続への意識・実践改革②

【課題】保育・教育の総合担当部局を行政上立ち上げることで、小学校以上の学校教育部門との連携・接続に課題が生じている地域がある

- 教育委員会と福祉関係部局の本質的な連携・協働が必要
- 地域の実態に応じた連携のグッドプラクティスの収集と解明、発信及び周知
- 幼保認こそれぞれの連携・学び合い・協働的研修運営
- 地域の子どもを共に育み小学校へとつなげていく協働体制の構築
  - すべての幼児教育施設に通う子どもは、その地域の小学校へ入学していくことを踏まえ、小学校を核として、育てたい子ども像を共有し、保育・教育理念を共有する協働的研修の必要性
  - 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を軸とした協働的な研修

# まとめ：実施運営の質の向上に向けて

---

- 運営主体／施設内マネジメント
- 今後の研修の在り方と教育資源の有効活用
- 社会に開かれた保育所保育
- 保幼小のヨコとタテの連携・接続に対する意識改革